

「死の授業」を読ませていたごましました。

今日この本を讀み終つた。これからどう生きて行ったら

死をむかへる時 心理的に悔いなく逝けるか改め考へて
かました。現在の私は高令になりつゝあり整形的には身体の

あらゆるところが痛々(首、腰、足の先まで)歩行にも困難な状態

で辛い日常ですが、成人病とか悪性(の病気)ではなく一死か

近づいてくるという日々ではありません。お陰さまで有難いとも感じます。

今日のは今は七、八の御月命日です。今では

医学も進歩し治られている方もいらつせよですが、三十年以上の医学

では治療は(一流の大病院で)して頂いたごましても治らない。でした。

初めの四カ月は手術・化学療法としてすっかり元気になったよう

です。退院はして、通院治療と一年した頃 頭の骨に転移

して脳腫瘍と診断されました。病名も一死のこともわからない

のは八カ月の病生活の後、安らかな死をむかへ

させていたごましました。眠るような静かな死でした。

その後 四人の親の死も看取りましたが、(実の父の死は高令で肺炎でした。私の目の前で本当に寝ていた状態でいつ息をひきとったかわからない死の瞬間でした。家族や親の死は確かに悲しいですが、安らかに(安楽死)ではありませんが亡くなったとは羨ましく、これに者にとつて何よりのなぐさめです。

オ一章 「ブリクスター」さんの報道「……」のような病でも亡くなる時でもわからないので、すからもう少し心理的にゆとりを持って行動出来なかったかばと感じました。(本当の末期状態かをみきめるとか)

オ二章 私自身はやはり助からない病とかわかって早く尊厳死に賛成です。(平穏死……信仰などをして静かに待つ)

オ三章 私の信じる の教えでは「生・老・病・死」をいつても

心において、100%必ず訪れる死ですが、老や病に出会っても生を充実出来るように日々生活するようにと……

↑ 生があるから死があり、又死があっても生がある
命は永遠という教えです。

死の授業の感想

テーマに合わず、楽しく、

明るく読みやすく書かれました。

人生と医師としての修行されて来られた

先生のお人格と思っております。

一人でも多くの人は(若い人にも)読んで

欲しいと、そして、今に読んでいて命(生を)

感謝で精一杯生きて欲しいと思っております。

有らうとござりました。

采筆ですが先生のこれからの活動躍を

注祈りしております。

三月五日